

実践事例⑦ 江戸川区立本一色小学校

1 取組・活動名

「福祉について考えよう ～優しさいっぱい本一色っ子～」

2 取組・活動のねらい

- ブラインドサッカーの体験を通して障害者スポーツを知り、障害への理解を深める。
- 障害があることを体験することで、障害者が困っていることに気付き、自分にできることを考える。
- 高齢者との交流を通して共に生きることの大切さを知り、相手の立場に立って自分にできることを考える。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・20時間」

4 実施上の工夫

- ・ ブラインドサッカーを体験するため、外部講師としてアスリートを招く。
- ・ 障害があることを体験させるため、外部講師として江戸川ボランティアセンターの方を招き、点字ブロック等の具体物を準備する。
- ・ 高齢者と触れ合うため、地域の高齢者施設を訪問する。

5 本取組・活動の内容



「ブラインドサッカーに挑戦してみよう。」

- ・ ブラインドサッカーのアスリートをゲストティーチャーとして招き、アイマスクをした状態での体操や、二人組で歩いたりした後、ボールのトラップやパスを行った。
- ・ 障害のある人も自分たちにできるスポーツを楽しみ、精一杯努力していることが理解できた。



「障害があることを体験してみよう。」

- ・ 江戸川ボランティアセンターの方を招き、視覚障害について学習した。
- ・ アイマスクをして歩くことにより、視覚障害者が道路を歩くときにどんなことに困っているかを知り、自分たちができることは何かということについて、体験を通して学んだ。
- ・ その他、簡単な手話について学んだ。



「地域の高齢者の方と交流しよう。」

- ・ これまでの学習を生かして、地域の高齢者施設を訪問し交流した。
- ・ どうやったら高齢者の人に楽しんでもらえるかを考え、自分たちで計画し活動した。
- ・ 高齢者との触れ合いを通して、様々な立場の人の気持ちについて、相手意識をもって考えることができた。

6 成果

- ・ アスリートを招き、障害者スポーツを体験した結果、児童が障害者の立場になって考えるきっかけとなった。
- ・ 江戸川ボランティアセンターの方を招き、障害があることを体験する活動を通して、障害は特別なものではなく、自分たちの苦手なことと同じであるという意識をもたせることができた。また、障害のある人にどのように関わっていけばよいかを考えさせることができた。
- ・ 地域の高齢者施設を訪問し交流することで、人を楽しませることの喜びや、様々な立場にある人の気持ちを考えて行動することの大切さを学ぶことができた。
- ・ 外部講師と連携した学習を計画することにより、教師自身が障害者理解教育について学ぶことができた。